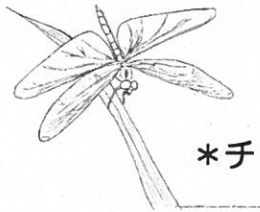
生態園観察マップ　＊＊行ってみよう見つけてみよう＊＊　梅雨編



＊チョウトンボ

季節のできごと

・水田に稲を植えました。お米を無肥料、無農薬で育てています。<A>

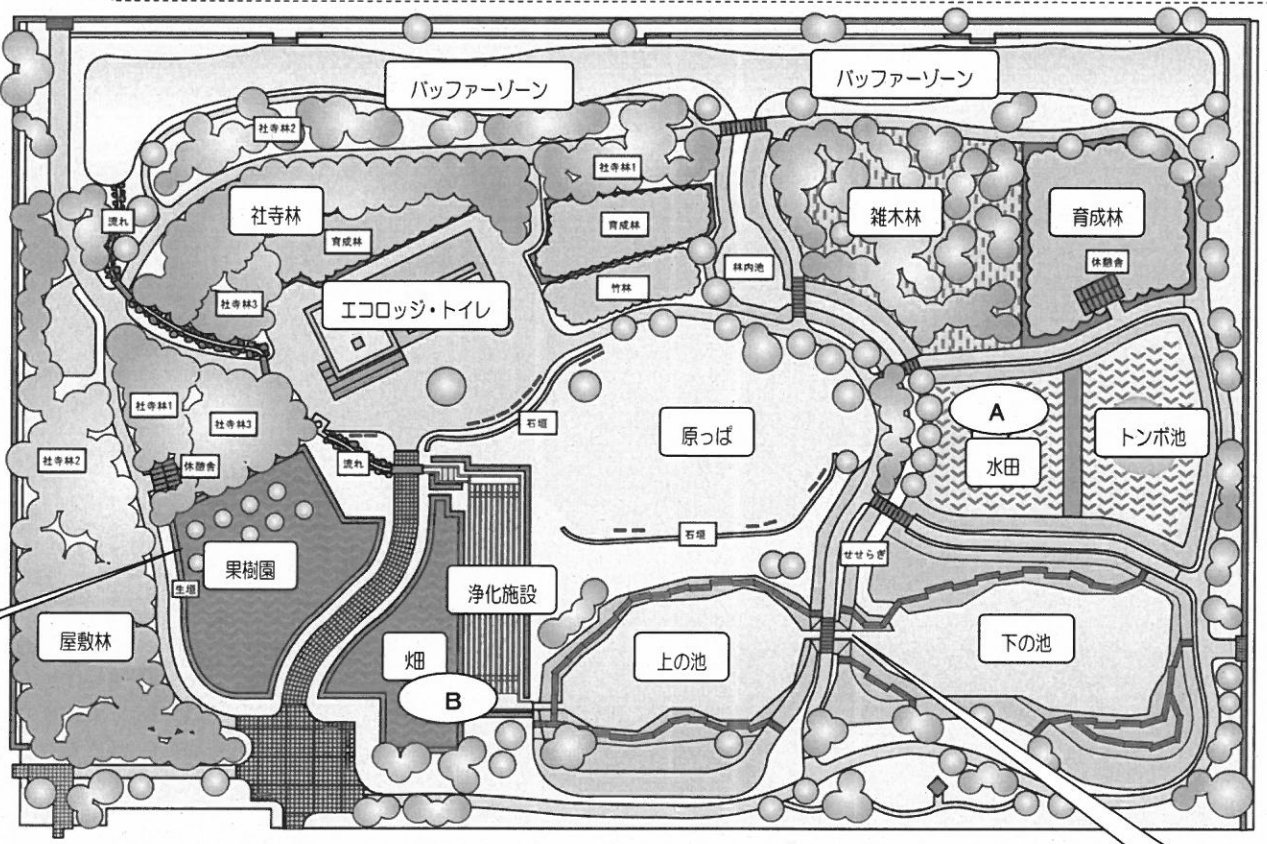
生態園の水環境は外部と接続されておらず、水源は基本的に雨水を使っています。

今年、植えた稲の品種は、埼玉県の育成ブランド米「彩のきずな」

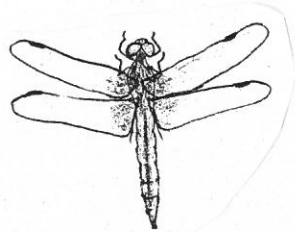
（米の食味ランキング2017年度　特A）です。

＊ドクダミ

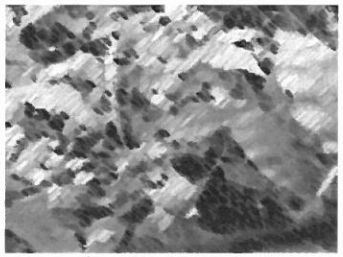
クチナシ



ヒルガオ



＊ショウジョウトンボ



ヘビイチゴ

＊印は、裏に説明があります。

読んで参考にしてみて下さい。

＊ヒツジグサ

ドクダミ

この時期、生態園で最も目立つのは白い十文字の花、ドクダミです。花びらにみえる白い部分は葉の一部が変化したもので、よく見ると、真ん中の黄色い部分に小さな花が集まっています。やがてここに小さな種子をつけます。

ドクダミは地下茎で増えるため、根が残っていると摘んでも繰り返し同じところに生えてきます。この習性や臭い、名前などからネガティブなイメージを持たれることもあるようですが、「毒を溜めて出す」、「毒や痛みに効く」というのが名前の由来です。

江戸時代の植物学者、貝原益軒は「十種の薬の能ありて十薬となす」と記し、漢方薬でも十薬の名で現在も使われています。

ヒツジグサ

十二時辰の未の刻(午後2時)頃に花を咲かせることから、ヒツジグサと名付けられたといいます。実際は朝から夕方まで咲いているようです。日本に野生するスイレンで色は白です。

実は、スイレンという種は存在しません。スイレン目スイレン科スイレン属の植物全体を指す総称で、野生種の代表的なものがヒツジグサです。

スイレンは海外でも人気が高く、園芸品種は200品種以上、色とりどりのものが作られています。

クロード・モネの絵画「睡蓮」が有名ですね。

トンボ　ウオッチング

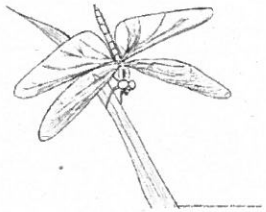
春から秋にかけて様々なトンボを見ることができます。季節によって出現期間が異なりますが、羽化する初夏からが観察に適しているようです。

トンボの一生は卵→幼虫(ヤゴ)→成虫に変態(羽化)です。羽化後しばらくの間は生殖機能を持たず、この期間を未成熟期、以降、成熟期となり、この途中で体の色が変化する種類もいます。

生態園でみられるトンボをご紹介します。一部は展示館2階などに写真が掲示してあります。

○アオイトトンボ　青糸とんぼ〔春～秋〕
腹部背面が金属光沢の緑色に輝く。成熟したオスと一部のメスは翅胸部や腹部の側面に青白い粉をふく。

○チョウトンボ　蝶とんぼ〔初夏～初秋〕
真っ黒い体に幅広い光沢のある翅をもち、その色は見る角度で金色っぽい緑色や紫色に見える。
チョウのように翅をはばたかせてひらひらと飛ぶ。
チョウトンボが生息する池や沼は環境がよいことのあかしともいわれている。



チョウトンボ

○コシアキトンボ　腰空きとんぼ〔初夏～初秋〕
全体が黒く、腹部のつけ根だけが白（成熟オス）か黄（メスと未成熟オス）
羽の長さに対して腹部が短い。

○ハグロトンボ　羽黒とんぼ〔夏～秋〕
翅が黒く、腹部は細身でオスは光沢のある緑色。
メスは光沢なし。

○ウスバキトンボ　薄羽黄とんぼ〔初夏～秋〕
全身オレンジ色。成熟すると赤みは増すが真っ赤にはならない。

○ノシメトンボ　熨斗目とんぼ〔初夏～秋〕
翅の先端に焦げ茶色の斑紋、成熟したオスの腹部はオレンジ色。

○ショウジョウトンボ　猩々とんぼ〔初夏～夏〕
若いときは雌雄ともオレンジ色だが、オスは成熟すると全身真っ赤。
真夏に池で見る真っ赤なトンボはほぼショウジョウトンボ。

○ナツアカネ　夏茜〔初夏～秋〕
アキアカネと並ぶ赤とんぼの代表格。未熟個体は雌雄ともに橙黄色と黒の縞模様だが、オスは成熟すると全身（頭・胸・腹）が真っ赤になる。